

## 新・ふるさと探訪 シリーズ「島」 第4回

今治市吉海町 しま 津島

8  
AUG / 2020  
vol. 281

特集「組合員とともに農業と地域の未来を拓く」  
 第23回通常総代会  
 新・ふるさと探訪シリーズ「島」 第4回 津島



今治市波方町 かりやま のとし 菊山 均さん



大島の幸港と津島を結ぶ 定期船



津島には昭和38年まで 小学校があった



津島は大島の西に位置し、古くから海運業で栄えた島。漁師は一人もいなくなったと言われています。農業は果樹が盛んで、柑橘類やイチジク、ピワを栽培していました。なかでも「津島イチジク」は今治市場では高値で取引されていたブランド品。島へのアクセスは、大島の港から船で約10分、一日3往復。現在の人口は10戸13人。(令和2年5月末、今治市住民基本台帳人口統計)



島の南側からみた来島海峡大橋。橋全体を真横から見渡すことができる

学校卒業後は、名古屋でコンピュータ関係の仕事をしていましたが、25歳の頃に津島に戻り、乳牛の肥育を始めました。多い時で120頭ほどおり、牧草などを育てるための畑も3〜4ほど管理していました。搾乳した生乳は、船に積み今治まで運んでいきましたが、それが、松山まで運ばなくてはいけなくなり、乳牛をあきらめました。その後は、大島で土木関係の仕事に従事しながらイチジクやピワを作り市場へ出荷していました。現在も少しですが作っています。

今、島には入院している2人を除くと6人しか住んでいませんが、みんな小さいころからずっと一緒に気心知れており、楽しくやっています。懇親会という名の食事を毎月公民館で行っていますし、8月にはやぐらを組み大太鼓をたたいて盆踊りを踊ります。10月の秋祭りも伝統の行事です。

この島にいて不便・不自由なことはありません。私たちの年代になると日常の生活が順調であればそれで良いんです。寂しいと思っただけかもしれません。これからこの島でみんなと一緒に暮らしていきます。

(今治市吉海町津島 藤澤豊彦)



農協総代 藤澤 豊彦さん(79歳)

毎月、JA大島支店の職員が津島を訪問する





















